

# 国際化時代の研究開発のあり方

Role of R&D in the Global Era

専務取締役  
技術本部長  
世羅勝也  
Katsuya  
SERA



「塗料の研究」をご愛読頂きまして有り難うございます。お陰様で創刊以来46年、第133号を発行することが出来ることはご愛読頂いている皆様のご指導、ご鞭撻によるものと感謝致しております。

さて、塗料を取り巻く環境はあらゆる分野でかつてないドラスティックな変化に直面しております。誰もが信じていた永続的な経済成長は終わりを告げ、それと共に情報インフラの急速な発展により情報、マネー、産業、環境規制のボーダーレス化が進行しており、あらゆる分野で世界的規模の大競争時代に突入しています。

塗料業界は過去に於いては各産業分野を支える脇役として、市場の要求に応じる製品を提供することによって、経済成長と共に比較的安定に成長してきたという歴史があります。しかし、ここ数年塗料業界に於いても世界規模での企業の合従連衡・再編成が始まっており、いよいよ間近に迫った21世紀への生き残り競争が現実のものとなってきました。

こうした急激な国際競争の中で、世界的に見れば小さな企業である当社が時代の波に呑み込まれない力、言い換えれば継続、更には発展していく力を求めるとすれば、それは数多くのユーザーにとって価値有る企業であることを示し、存在意義を認めて頂くことにつきます。塗料メーカーである当社が永続的に成長・発展して行くための最も重要なキーワードは研究・開発であり、その成果として常に市場変化、ユーザーニーズに対応した新技術・新製品を提供して行くことが必要と考えています。

さて、塗料に限定するものでは有りませんが今日の新製品開発を考えると、重要な要素の第1は開発のスピードアップ

です。先に述べた情報インフラの発達等により市場変化のスピードアップ、製品ライフサイクルの短期化が進んでおり、この変化に追従していける開発のスピードが必須となっています。研究開発の合理化・スピードアップのためのマニュアルやシステムはいろいろ開発されていますが、それだけでスピードアップを図ることは困難です。必要とされる時期に必要なとされる製品を市場に提供して行くためには、研究開発に携わる人たちが常に鋭い時代感覚を持って先の変化を読み、他社に先駆けて開発に着手していくことが必要です。

開発における第2の重要な要素は、開発すべき新技術・新製品の品質目標レベルです。単に塗料・塗膜としての機能目標だけでなくコスト、環境対応も含めた高い目標にチャレンジして行かなくてはなりません。低レベル、曖昧な目標で開発されたものは開発されたときの市場競争力は期待できません。あくまでも困難は承知で高い目標の開発を手がけて行くことが企業の成長・発展のための新製品開発として有るべき姿と考えて取り組んでおります。

当社では本年度新製品開発力の強化を目的に、開発を担う部門を「製品開発研究所」として独立・強化致しました。これによりこれまでの「技術研究所」「色彩研究所」「塗装技術研究所」と共に連携・協力して開発の効率化・スピードアップが図れる体制が整ったと考えています。

最後に、研究・開発は企業の、ひいては社会の将来の夢を実現して行くものであり、研究・開発に携わる人たちの努力こそが次代を形作ると考えています。開発の基礎となるのは幅広い基礎知識の上に立った固有技術力の結集であると認識し、今後も一丸となってたゆまぬ努力をして行く所存です。